

宮崎汎会員が見た世界の旅第2部人物編第39話

マルコ・ポーロの東方見聞録 イタリア

敗戦間もない日本は、食べるものにも事欠く物質的に貧しい国であった。その頃「黄金の国ジパング」の話を聞いた。日本が黄金あふれる豊かな国などと、何を根拠として誰が知っているのか子供心に大いに疑問を感じたものである。

そしてそれは、長じて読んだマルコ・ポーロの東方見聞録に記述されていることを知ったのである。マルコ・ポーロの生まれはヴェネツィアであるが17歳の時、貿易商の父親と叔父に連れられペルシャから中央アジアを経て現在の中国北京に至り、以来17年間を中国元朝の皇帝フビライ・ハンに仕えたのである。

マルコ・ポーロは国を出てから24年間の長きにわたり異文化体験をして帰国した。時あたかもヴェネツィアとジェノバとの間で戦いが始まり参戦するも捕虜となってしまう。その時に獄中で自身の体験談を語ったことを記録したものが「世界の記述＝東方見聞録」である。



ヴェネツィアのサンマルコ広場

マルコ・ポーロ(1254年ごろ～1324年)は、ヴェネツィア共和国の大商人である。彼が中央アジアや中国各地を訪れ自身の体験を述べた東方見聞録は、中国やインドを中心とするこれまで知られていなかった情報を、初めてヨーロッパに紹介する役割を果たし、多くの人々にアジアに対する関心を抱かせる端緒となったのである。

東方見聞録は世界地図作成やアメリカ大陸発見のクリストファー・コロンブス等にも大いなる刺激を与

えて大航海時代に繋がっていった。マルコ・ポーロは陸路中国におもむき帰路は海路で帰国しているが、全行程は15,000kmにおよんでいる。

当時はイスラム教徒をはじめとしてヨーロッパから中国を訪れる者が多くいたが、マルコ・ポーロもその一人であった。皇帝フビライ・ハンは、国の統治や法政、さらにはキリスト教に関しローマ教皇、教会、住民であるラテン人の風習などについて強い関心を持って情報を求めた。そしてマルコ・ポーロ、父親や叔父等はこれによく応えた。

マルコ・ポーロは非常に英明な人物で語学力にも秀で皇帝の信任厚く、皇帝の使者として様々なところへ派遣された。そして地方の珍しい物産、風習など皇帝が欲するであろう事象を察知し報告したのである。

マルコ・ポーロが語る東方見聞録は、元朝領有の広大な地域へ皇帝の使者として赴いたときの見聞や故郷ヴェネツィアと中国の往復で体験した人種・宗教・特産物・風俗習慣・狩猟・宝石、言い伝え、さらに中国の宮殿の詳細など、取り上げた事象は非常に多岐にわたり、彼の洞察力と観察眼の鋭さに驚嘆させられる。

東方見聞録の内容を思いつくままにいくつか列挙してみると現代社会を論じる時、もはや石油抜きでは語れないが、今から700年前すでにカスピ海周辺の住民は石油を日常生活に利用していたこ

とが記されている。

アサシンは暗殺を意味するが、その語源は東方見聞録に記されている。イスラム教のシーア派の一派である“山の老人”とする人物が麻薬を利用して、人を思うままに操っていた。老人は麻薬のハシシュという大麻を刺客に与えて抹殺したい人物のもとに送り込み目的を遂げたといわれている。



石油で潤うアゼルバイジャンの古都

またマルコ・ポーロは現在のアゼルバイジャンを訪れ、イスラム教の信者は、手軽に罪が免ぜられ非行が許される宗教である。だから世界中の多くの種族がイスラム教に改宗するとも述べている。

キリスト誕生を讃える東方の三賢人は、宗教画の題材としてしばしば描かれているが、三賢人はゾロアスター教徒（拝火教）であり、さらにゾロアスター教がなぜ火を尊ぶのか興味深い記述を残している。アララト山のノアの箱舟伝説についても語られている。

日本についての記述がある。「黄金の国ジパング」の項である。ジパング即ち日本の王宮の屋根はすべて純金

でふかれ、床も純金で指2本幅というから2cmの厚さで敷き詰められている。さらにジパングでは真珠も沢山取れるが、真珠を土葬される死者の口中に一粒含ませる風習があると述べている。だがこれは日本人の風習ではあるまい。

以前見た映画“ラストエンペラー”の中で、なんの呪いなのか西大公が没したときに真珠を口に含ませるシーンがあったことを思い出した。

日本へ黄金を求めてやってきた軍船が暴風によって壊滅した、いわゆる元寇弘安の役についての記述もある。そこには生き残った元寇の戦士たちが日本の首都京都を占領したとあるし、またジパングの国民は偶像崇拜の仏教徒であるといい、この項で千手観音を取り上げている。偶像の中に光背から手が沢山出ている千手観音はよほど奇異に感じられたのであろう。さらに驚くことに日本には食人の風習があるとも語られている。無論日本には古来よりそんな風習はなかったのであるが、げに風聞とは恐ろしいものである。

「黄金の国ジパング」は、このように事実でない事柄も多いが東方見聞録によってヨーロッパの人々は、初めて日本を知ることになったのである。

余談ながら東方見聞録の原本はすでに失われてしまったが、現存する古写本は百数十を超えるものがあるといわれている。写本を読み比べると写本間に一致しない部分があるといわれている。またマルコ・ポーロは実在していないとする説もある。

マルコ・ポーロを故郷ヴェネツィアでは“イルミリオネ=百万男”とあだ名している。豪商で百万長者であるとか、中国を語る時百万単位で物事を語る大風呂敷人間だったなど諸説あるが、なぜイルミリオネと呼ばれたかその由来は定かではない。